

# 三上文法の概要

大堀 淳

2022 年 2 月 12 日

## 概要

三上文法の基本は、単語の意味を基礎とする構文構造の同定である。句構造の導出規則により構文構造決定するチョムスキー流のアプローチと違い、膠着語族である日本語の解析に向くのみならず、意味理解と一体となった本来の構文理解に道を拓く可能性を持つ。

## 1 三上文法の構成要素

### 1.1 文構造

文の種類は以下の通り。

- 動詞文  
「飛びはするが、」など、「する」を代動詞とする述語が動詞である。動詞文は、動詞を述語とする文である。
- 名詞文  
「美しくはあるが、」や「害虫ではあるが、」などの「ある」を代動詞とする用言で結ぶ文。形容詞文と準詞文に細分される。
  - － 形容詞文  
「美しさ」など、語幹に「さ」を付けられるもの（さをつけて名詞になるもの）が形容詞。形容詞文は、形容詞を述語とする文。
  - － 準詞文  
準詞文は、「さ」なしで単語となる）名詞に準詞「だ」、「です」をつけた述語で結ぶ文。

### 1.2 準詞文の種類

準詞文は、その意味によって以下に細分される。

- 指定位  
単語 + 準詞の形をとる。現れる単語は、動詞等の補語（連用単位）としての機能をもたない無格。「私は、幹事です。」や「犬は、動物だ。」などの場合、幹事や動物は、それ自身で述語であり、他の述語の補語ではない。
- 指定文  
連用単位 + 準詞の形をとる。連用単位の補語としての役割に対応する格をもつ。連用単位の格に従い、指定の前の文に戻ることができる。「幹事は私です。」の場合、私は主格の連用単位（主格補語）であり、「私が幹事です。」に戻る。
- 端折り  
「姉さんは台所です。」や「明日から学校だ。」など。連用単位（補語）が、その補語を含む述語を代表している文。

代名詞は、指定の準詞文にしか使われない名詞である。

### 1.3 疑問詞

以下の 12 個。

疑問詞	属性	境遇性	「か」「も」の語尾	分類
どれ				疑問代名詞
どちら	方向			疑問名詞（？）
どなた	人			疑問代名詞（？）
どこ	場所			疑問名詞
どう	様子			疑問連用語
どの				疑問連体語
どんな	様子			疑問連体語
だれ	人			疑問代名詞、疑問名詞
なに	物			疑問名詞
なぜ	理由		(「か」のみ)	疑問連用語
いつ	時			疑問連用語
いくつ	数			疑問連用語（？）

境遇性が のものは、「こ、そ、あ、ど」と変化する。「か」「も」の語尾が のものは、「か」に伴われ不定（名詞）になり、「も」に伴われ全称になる。

## 1.4 副詞

連用が主であるが、「の」をとり連体になる。「連体詞」も副詞である。

関連する事項。

- 数詞：連用が主で名詞にもなる。「本を2冊買う。」
- 時：格助詞を伴わず連用になる。名詞として位格の「に」を取る。
- 所：通常名詞として位格の「に」を取る。

## 1.5 接続詞

前文代用を表す承前詞。前文代表的ものと前文代理的ものに別れる。

接続詞	代表・代理	解説
動詞 + 「て」	代表的	動詞は代表作用をもつ
それで	代表的	代表の「それ」 + 準詞「です」の「で」
そして	代表的	代表の「そう」 + 準動詞「する」
だから	代表的	準詞「である」の活用形
ですから	代表的	準詞「である」の活用形
だが	代表的	準詞「である」の活用形
でも	代表的	準詞「である」の活用形
が	代表的	接続助詞「が」は単独でも代表する
それから	代理的	
そうして	代理的	
そして	代理的	
それでは	代理的	
それでも	代理的	

## 1.6 連用補語、格、格助詞

述語（連用の言い切り）は、補語を伴って文章を作る。補語は、その役割に応じて格をもつ。名詞は、格助詞をとらない、連用補語となる。連用の格助詞は、以下の7つ。

格	格助詞	説明	英文	例
主格	が	第一格、動作主体	nominative	私が、
対格	を	動作に対象	accusative	ワインを
位格	に	通常的位置	locative	バーに
与格	に、へ	作用の向かう方向	dative	彼に、彼へ
奪格	から、に	作用が来る方法	ablative	彼から、彼に借りる
具格	で	作用の手段	instrumental	グラスで
共格	と	作用の共同者	committative	彼と

日本語では、これら格助詞とともに名詞句は、同一の身分を有し、自由な語順で述語の補語となる。主格補語（私が）も、特権的な構文上の特徴はなく、主語は成立しない。

### 1.6.1 （参考）英文法の「主語」の概念

- 主格の中で、不完全自動詞 (be, become, seem) にこうぞ行くするものを除いたものを nominee（「主格と成りうるもの」）と定義する。
- nominee の中で、文の述語動詞と張り合っているものを、主語と呼ぶ。

注：日本語の主格は、述語動詞との特権的な関係はなにもない。

## 1.7 主題と係助詞

明示的な主題の提示は、係助詞「は」「も」でなされる。

係助詞	役割	例
は	（新たな？）堤題	私は幹事です（主格）、私は嫌いですか（対格）、私には（位格）、
も	（追加の？）堤題	私も、私にも、

さらに、どの格も堤題の対象となる。ただし、

- 主格「が」、対格「を」は、省略される。「をば」は、「を」を残す例外。
- 位格の「に」は最近よく省略される。与格の「に」は省かない。

主題が明示的に示されない場合は、暗黙に文中にふくまれるか、それ以前の文から受け継がれる。

- 陰題  
文中に暗黙に主題が含まれる。「ヘンリーが到着したんです。」（「誰が到着した？」に対して）陰題は、顕題に変換できる。「到着したのはヘンリーです。」
- 無題  
文中に主題はなく、主題は、文脈から受け継がれる。  
「ヘンリーが到着しました。」（「なにかニュースはないか。」）  
「空が高く、空気が綺麗だ。」（「秋はどんな季節だ。」）

## 1.8 主題の格

動詞文の主題は概して有格。

- 格助詞 + 「は」の形は、その格助詞の格をもつ有格の堤題
- 名詞 + 「は」の堤題の動詞文の場合：
  - － 強い「の」的磁力線によって場面をマグネタイズする。
  - － 用言の補語のうち、主格、対格、位格、時の副詞に空席があれば、主題はその補語を兼ねる。空席がないか、有っても不適当な場合は、「の」的な位置にとどまる。

名詞文の主題は、無格である。

- 名詞文の主題は、主格以上である。
- 解説部分に現れる主格は、地位の低い主格であり、部分主格と呼ぶ。
- 名詞で結ぶ場合、部分主格は現れない場合が多いが、明示することもできる。
  - － あの人は、（本職が）芝居の黒ん坊だ。
  - － 彼は、（根が）小心者だ。

堤題のある名詞文のパターン

「＜全体＞は、＜部分＞が＜しかじか＞。」

これは、一般に、自己中心的な無格の主題の属性を表す包摂判断。

主題を欠く形容詞文は比較を表すことが多い。

花が美しい（もみじがよいと言うがやっぱり花がよい）

従属節には、部分主格の「が」が現れる。

私が幹事だった時には、

この意味構造は、「その時は、私が幹事だった」となり、部分主格である。

単純報告文というべき動詞文は、主題の「は」なしに成立する。

大同元年、空会が唐から帰朝した。

## 1.9 受身と動詞の種類

主格は、語法上他の各と対等だが、以下の優位がある。

- 受け身は主格を軸とした変換。主格「何々が」を尊格「何々に」に変える。

その他にも、

- 主格は、殆どの用言に係る。
- 命令文で振り落とされる。
- 敬語法で最上位に立つ。
- 用言の形式化に抵抗する。

などがある。

受け身：

- はた迷惑な受け身：母に死なれる。子供に泣かれる。そこに居られてははこまる。
- まともな受け身：通常の（主格以外の格を主格とする）受け身。

動詞の種類：

- 能動詞：受け身になる。

- － 他動詞：まともな受け身を作る。
- － (能動の自動詞)：はた迷惑な受け身しか作らない。
- 所動詞：受け身にならない。(ある、見える、聞こえる、する)

能動の自動詞と所動詞を併せて、自動詞とする。

所動主格や形容詞に係る主格は、能動主格に比べて地位が低く、対格に変えやすい。「私には水が要る。」(所動詞文)「私には水が欲しい。」(所動詞文) これらは対格ではなく、やはり、主格。

「ある」と「いる」の違いも、「能動」と「所動」の区別からくる。「ある」は所与で履歴をもたないのに対して、「いる」は履歴を持ち有情者がある場所を占めること。

所動主格は「腹たち」「仲直り」「花見」「山登り」「東京行き」のような複合語を作るが、能動主格はつくらない。

## 1.10 活用形の機能

動詞の機能である陳述の種類がムウド(法)に分化する仕方。

陳述系：ムウド分類

- 仮定(係り)：何々すれば
- 断定(結び、終止)：何々する
- 推量(結び、終止)：何々しよう
- 命令(結び)：何々しろ

連 - 系：

- 連用：何々したい
- 連体：何々する

## 1.11 主題のスコープ

三上の規則

- 終止形はオープン
- 中止連用形はオープン
- 連体はクローズド
- 仮定法はハーフ
- 引用符「はクローズド、」はオープン

主題は、中止連用終止形をまっすぐ通りぬけ、連体形を迂回し、仮定法を斜めに通り抜ける。

プログラミング言語の変数束縛と同様、主題有向範囲をもつ。堤題等で導入された主題のスコープは、

- 他の堤題隠される範囲
- 引用符内
- 体言を修飾する連体節

を除き、文を超えて広がる。

## 1.12 係り結びのスコープ

膠着語である日本語は、述語も補語も、その係り結びのスコープは後方に広がる。

日本語は、同一の述語の補語の順序は原則自由。しかし、係りと結びの語順は固定されている。

述語は言い切り以外では、後の述語に係り、さらに、係りを受けて結ぶ述語も、言い切りでなければ、それ自身、後ろの

述語に係る。

陳述度の低い述語は、連用補語を食い止めない。つまり、補語のスコープは、複数の述語にまたがる。「手紙を書いて、よく読み返した」において、「手紙を」の対格補語は、「書いて」だけでなく、「読み返した」の補語でもある。連用補語のスコープは、同一の各の補語がくるか、意味上の不整合があるまで続く。「手紙を書いて、雑誌を読んだ。」「手紙を書いて、散歩にでかけた。」

#### 述語の分類

- 単式：終止連用形、オープン、補語を食い止めない
- 複式：仮定法などの従属節
  - － 硬式：陳述度が高く、連体に収まる  
「(雨が降るので、遠足はやめた)連中が」
  - － 軟式：陳述度が低く、連体に収まらない。  
「雨が降るから、(遠足はやめた)連中が」
- 接続助詞は、受ける終止形と一緒にして、硬式

### 1.13 アスペクト（態、動作の様相）

代表的アスペクト：完成的（一時的、一階的） 未完成的（持続的、反復的）

日本語のアスペクトは、動詞の種類に現れる。アスペクトによる動詞の分類

#### 1. 完成的な動詞：「いる」を添え字として、「何々している」と言える動詞

雨が降っている

- 継続動詞
- 瞬間動詞
- 特殊動詞

連用形＋「ながら」：動作進行中を表す。

#### 2. 未完成的動詞：「いる」を添え字として、「何々している」と言えない動詞。

運動会がある（X 運動会があっている）

状態動詞であり、数が少ない。

連用形＋「ながら」：反復を表す。

「何々する」

- 未完成的動詞では現在を表す。（文章体では、「何々している」となる）
- 完完成動詞では未来を表す。

#### 動詞の分類の復習

- 能動詞対所動詞：主格補語の働き方（意志的、無意志的）による分類
- 他動詞対自動詞：代表的補語の格の種類による分類
- 完成的未完成的：動詞の表す動作、作用の時相による分類

### 1.14 時制

過去（完了）と現在（未了）の2時制。

1. 事実としての完了と未了
2. 心理的な完了と未了

客観的事実報告の過去形と主観的知覚や主張を表す現在

「2度と会わなかった」「あれから1度も会わない」

3. 期待の有無

「あ、ここに有った」(心理的期待)「おや、批評がある」(事実)

「見えた」「見える」

4. 想起と主張

「7分の1は、循環少数だったね」(想起の過去)「7分の1は、循環少数だね」(主張の現在)

「明日はダメです。研究会がありました」

5. 儀礼的な問いとただの問い

「油絵をお書きになりましたね」(儀礼的な問いの過去)「油絵をお書きになりますね」(問いの現在)

以上の中で、心理的なニュアンスがつくのは、未完成動詞が多い。

## 参考文献

- [1] 三上章現代語法序説-シンタクスの試み- くろしお出版, 1972 .